

ホームドクター 保存版 2017

2017

病気や治療の やさしい覚書

南区
豊平区
清田区
北広島市版



心臓カテーテル治療

**狭心症や心筋梗塞に対する内科的治療法
体への負担も少なく翌日には退院可能**

教えてくれたのは



華岡青洲記念心臓血管
クリニック 医長
管 家 鉄平氏

心臓カテーテル治療とは、心臓の筋肉に栄養を送っている冠動脈という血管が狭くなって血の流れが悪くなり、息苦しく胸が締め付けられるような症状が現れる狭心症や、冠動脈が完全に詰まって心臓の筋肉が壊死し機能を低下させてしまう心筋梗塞に対する内科的な治療方法の一つです。

心臓の治療と言うと、全身麻酔で大掛かりなものというイメージが強いかもしれませんが。心臓カテーテル治療について患者さんによく話すのは、ラミエンやスバゲイテックの直径2mm前後の細い管(カテーテル)を局所麻酔で足の付け根や手首の動脈から挿入し、心臓の狭くなった詰まった血管まで届かせて、カテーテル内から髪の毛の毛く

らしいの細いワイヤーを介して風船を運んで膨らませたり、ステントという金網を用いて血管を広げて血流を確保するというものです。以前はカテーテルも少し太めだったり硬かったため、ほとんどは足の付け根から挿入していましたが、今は細くて柔軟性もあり、当院ではほとんどの場合で手首から挿入しています。局所麻酔ですから患者さんと話しながら治療が行えるため、患者さんの状態もよく分かり、説明しながら治療を行うことで患者さんにとっても安心感が得られるようです。

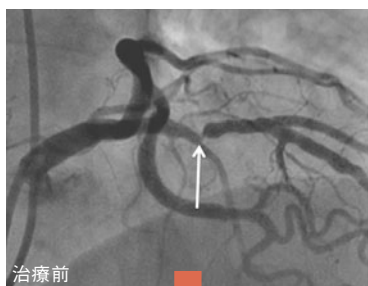
診療では、患者さんの症状をよく聞くことが重要で、血液検査や心電図では正常でも、話を聞くことによってよく調べてみると、実は心臓の血管が詰まりかかっていたという症例は数多くあります。当院では、血管内超音波検査(IVUS)や、赤外線を使った光干渉断層法(OCT)といった精密な検査が可能な血管内画像診断装置が組み込まれた最新のカテーテル台を導入しています。外来でもCTを用いたスムーズかつ正確な画像診断により、狭心症

や心筋梗塞の鑑別診断が行え病変の長さや血管の太さを判断し、適切な風船やステントのサイズを選択するなど、最善の治療に努めています。

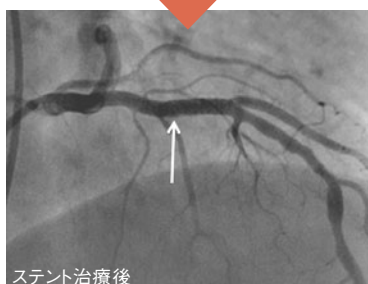
心臓カテーテル治療について、現在は95%以上がステントを使った治療を行っています。風船しかなかった時代は、約半数の人で再発が見られました。が、ステントが登場してからは、再狭窄する率は約30%にまで減り、さらに現在では血管が狭くなるのを防ぐ免疫抑制剤などの薬がしみ込んだ薬剤溶出性ステントというものが開発され、再狭窄する率が5%くらいにまで抑えられています。材質そのものも1mmの1000分の1単位の薄さで、柔軟性もより高まっていて、血管の広がりや長期にわたって保持できるようになっています。さらに現在では、ステントという金属に対する体にとつての異物反応を早急に改善できるよう、溶けるステントが開発中で、当院でも治療を始めるところです。



橈骨動脈からのアプローチによる心臓カテーテル治療



治療前



ステント治療後

治療時間は難易度、病変数によっても変わりますが、一般的なものであれば平均1時間くらいです。カテーテル治療がない時代は全て外科的な治療法としてバイパス手術を行っていました。全身麻酔で胸を開いて心臓を止めて人工心臓につないで行うため、手術時間も長時間にわたり患者さんにとって非常に負担の大きな治療となります。術後も1カ月くらいは入院しなければなりません。しかし、カテーテル治療では傷口は2mm前後、カテーテルを抜いて血が止まれば翌日に退院で日常生活に戻れます。このことがカテーテル治療の一番のメリットと言えるでしょう。現在も外科的治療が必要な症例はあります。しかし、心臓カテーテル治療の守備範囲が広がってきたことは確かで、今後もさらに低侵襲な治療への進化が期待されるところです。

先生のプロフィール
北海道大学医学部卒業、日本内科学会認定内科医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本心臓血管インターベンション治療学会認定医、医学博士

循環器専門医8人によるチーム医療 最先端の画像診断とカテーテル治療



外来診療を主体に最先端の画像診断とカテーテル治療の提供を目指している華岡青洲記念心臓血管クリニック。ベッド数19床、冠疾患集中治療室（CCU）を完備するなど、救急患者の受け入れ態勢も整っている。入院中は栄養士による生活習慣を改善する食事指導を実施。味付けなどにも工夫が施され「入院食がおいしい」との評判も



① 在籍する医師8人全てが循環器専門医であることも大きな特徴の一つ。3人いる放射線技師をはじめ看護師ほか優秀なスタッフがそろう
② 世界最高水準の320列CTを北海道初導入
③ 床はカーペット、壁には木目のパネル、天井には間接照明など、医療機関を思わせない高級感が漂う外来待合室。奥には華岡青洲の貴重な資料も展示されている

国道36号線沿いに2016年8月22日に開院した華岡青洲記念心臓血管クリニック。「医療を通して、患者さんには病後も生活の質を落とすことなく、より良い人生を歩んでいただきたい」と、日本のカテーテル治療の先駆者たちに師事、自らの技術レベルの向上に努めてきた華岡慶一院長。「できる限り患者さんに負担の少ない検査と治療で、最大の結果が得られるよう、最先端の医療を提供できるように努力してまいります」と話す。その思いは、江戸時代に歴史上証明できる世界初の全身麻酔手術を成功し、日本の医学に大きな業績を残した、華岡院長の先祖で医師の華岡青洲（3代華岡随賢）の『命を救うこと、そして手術や治療の苦しみを減らすこと』の精神を継ぐものであり、院名にその名を冠したのも、9代随賢としての華岡院長の強い思いからだ。

診療は、外来での画像診断に力を入れ、患者負担の少ない検査による迅速な診断と治療、本当に必要な患者だけを鑑別し入院治療を行うなど、患者第一主義を実践。より精度の高い診断と治療を実現するため、最新の320列CTを北海道で初導入（16年8月現在）。1回約0・3秒と一瞬で撮影が可能で、一般的にCTに比べて被ばく線量も削減でき、より鮮明な画像情報が得られ、病気の早期発見に威力を発揮。血管カテーテル室には最新の画像処理技術を採用した高性能フラットパネル型血管撮影装置2台を導入。最先端の低侵襲血管内治療が受けられる。また、次世代を担う医師の育成にも尽力するとともに、札幌市内および道内の病院と連携して遠隔画像診断システムの構築に取り組むなど、地域医療にも貢献。江戸時代から高いレベルの医療を目指してきた華岡青洲の精神がここにも受け継がれている。

循環器内科・心臓血管内科

医療法人 春林会

**華岡青洲記念
心臓血管クリニック**

☎011-350-5858

札幌市豊平区美園3条5丁目3-1

<http://hanaokaseishu.com>

受付時間／

月～金 8:30～11:00 13:00～15:30
土曜 8:30～11:00

診療時間／

月～金 8:45～12:00 14:00～17:30
土曜 8:45～12:00

休診日／日曜・祝日・年末年始

最寄りアクセス／

中央バス美園3条4丁目停留所から徒歩1分



理事長・院長
華岡 慶一氏

日本内科学会認定内科医。
日本循環器学会認定循環器
専門医。日本心臓血管インター
ベンション治療学会専門医。
医学博士